

保健体育科学習指導案

令和3年10月14日(木) 5限
3年2組 男子21名 女子18名
指導者 山田 豊尚

1 単元名 E 球技(ア ゴール型) バスケットボール

2 単元について

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型等があり、いずれも個人やチームの力を生かした作戦を立て、集団対集団、また個人対個人で得点を競うことを通して楽しさや喜びを味わうことができる運動である。バスケットボールは、その中でも「ゴール型」として位置付けられ、ドリブルやパス等のボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。本校では、第2学年と第3学年でバスケットボールの学習に取り組む。第2学年では、ドリブル・シュート・パス・リバウンドのボール操作や空間に走り込むなどの動きによる攻防を学習し、「ボールを持たないときの動き」にも着目しながら、ゲームを楽しんだ。第3学年では、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにさせたい。その際、攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにさせたい。また、球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどにも意欲をもたせたい。

事前にアンケート調査を行ったところ、以下のような結果となった。(36名 未実施：3名)

- | |
|--|
| <p>①保健体育は好きですか。 好き：29名(男子18名、女子11名) 嫌い：7名(男子2名、女子5名)</p> <p>①-(1)好きな理由</p> <ul style="list-style-type: none">・体を動かすことが好き・スポーツが好き・楽しい活動が多い・嫌いな種目や苦手な種目でも成功すれば達成感が得られるから好き・リフレッシュできる・座っていないくていいから <p>①-(2)嫌いな理由</p> <ul style="list-style-type: none">・動くのが嫌い・運動が苦手、不得意・走ることが大変だから <p>②バスケットボールは好きですか。 好き：20名(男子12名、女子8名) 嫌い：16名(男子8名、女子8名)</p> <p>②-(1)好きな理由</p> <ul style="list-style-type: none">・部活でやっているのが得意(2名)・友達とよく遊んでいるから・球技が好きだから・シュートが入ったときやよい感じに攻めることができたら嬉しい・するのは苦手だけど、みんなで協力するのは好き・見ても楽しいしやっても楽しい・見るのは好き <p>②-(2)嫌いな理由</p> <ul style="list-style-type: none">・シュートができない・ボールが思うように操れない・ボールを使うのが苦手・ルールがよくわからない、複雑・固いボールが怖い・頭にボールが当たったことがある・下手だからパスが回ってこない・チームスポーツだからプレッシャーがかかる <p>③バスケットボールの授業でどんなところが楽しいですか。(全員対象)</p> <ul style="list-style-type: none">・シュートが入るところ・ボールを触ったとき・みんなでパスをつないでシュートを決めたとき・シュートを決めて友達と喜び合うところ・チームの人から褒められたとき・チームの人がゴールを決めたとき・観戦しているとき <p>④バスケットボールの授業でどんな力を身に付けたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none">・周りを見る力・シュート力・ジャンプ力・走力・瞬発力・声をかけ合ってコミュニケーションをとる力・チームプレイの楽しさを知りたい |
|--|

保健体育が「好き」という生徒は多い。運動そのものがもつ楽しさや、運動の中で感じられる達成感、チームでの一体感を理由に挙げている生徒も多数いることから、そのような経験を多くしており、そのことが保健体育への意欲となっていることが伺える。ただ、「嫌い」の多くの理由として、「苦手、不得意」と生徒は答えていた。このことは、運動において目に見える結果(タイム、スキル等)が保健体育への意欲に少なからず影響していることが考えられる。バスケットボールの「好き」「嫌い」については、おおよそ半々の割合であった。「好き」な理由として、シュートやドリブル等のスキルのこと以外に、友達と連携した攻撃ができたときや協力できたときを挙げている生徒もいたことから、ゲーム中の友達との関わりがバスケットボールのもつ楽しさの大きな要因であることが考えられる。また、「見るのは好き」と答えていた生徒がいたことは、富山グラウジーズや八村塁選手の活躍もあり、バスケットボールが広く楽しめるスポーツになってきているということも考えられる。「嫌い」な理由として、シュートやドリブルの難しさを挙げている生徒が多数おり、バスケットボールを楽しむには、やはりある程度のスキルを身に付ける必要があると考える。スキルを身に付けるには、繰り返し行うドリル練習が必要であるが、その過程の中で「できる・できない」という結果にこだわるのではなく、「やろうとしていること」を大切にしたり、少しでもできるようになったことに着目したりする雰囲気をつくっていききたい。

本単元では、バスケットボールへの関わり方として「する・みる・支える・知る」という多様な関わり方があるということを理解させたい。そのために、バスケットボールの「する・みる・支える・知る」とはどのような姿なのかを具体的に示して取り組ませる。「する」はプレーヤー、「みる」は観戦者(ブースター)とスカウティング、「支える」は審判やテーブルオフィシャルズなどの裏方、「知る」は歴史や富山グラウジーズ等について調べる、というようにそれぞれに活動の姿があり、楽しさがある。単元後半のゲームでは、主に「する・みる・支える」をメインの役割とし、一人一人が様々な役割を経験できるようにしたい。多様な関わりを経験する中で、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実践につながる姿や感情が生まれることを期待したい。

3 研究主題との関連

研究主題

心と体を一体として捉え、生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる学習指導はどうあればよいか。

(体育分野)

身に付けた知識や技能に基づき、その段階に応じた運動を豊かに実践していくための指導過程はどうあればよいか。

本時は、男女混合チームでのゲームを行う。保健体育科の目標である「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」ということを考えたとき、体力や技能の程度、性別や障害の有無等、人には違いがあることを理解し、配慮しながら取り組むことは、とても大切なことであると思われる。一人一人の個性や特性を大切に、全員で楽しみながらゲームに取り組む姿に期待したい。また、男女の能力差があるため、「激しい接触はしない」等、安全面におけるルールはしっかりと配慮するとともに、「どんなルールであれば楽しめるのか」を話し合いながら取り組みたい。

バスケットボールのゲームを男女で楽しむためには、「体力や技能の程度が様々である」ということを理解しなければならない。その上で、「このメンバーで楽しむためにはどうしたらよいか」を考え、チーム全体での合意形成を図りながら進めていかなければならない。球技の楽しさの一つである「得点」の機会を増やすことで、コミュニケーション場面が増えると期待し、男子は通常のゴールヘシュート、女子は通常のゴールのシュートの他に、エンドライン上に1人のゴールマンを置き、ゴールマンへのパス(シュート)で得点というルールを設ける。コミュニケーションをとりながら攻撃し、敵のいないスペースに飛びこんでシュートをしたり、空いたスペースを教えてもらいながらシュートチャンスを作ったりする姿を期待したい。また、その攻撃を抑えるために守備でのコミュニケーション場面も期待したい。

「みる」の活動を具体的に示すために、富山グラウジーズの試合を見る。Bリーグでは、チームを応援する人のことを「ブースター」と呼ぶ。「ブースター」は、攻撃や守備に合わせて掛け声をかけたり手拍子を

したりしながらゲームを盛り上げる。「ブースター」の役割を本時のゲームの中にも取り入れ、応援する楽しさを感じさせたい。また、タブレット PC を用いてゲーム分析を行う「スカウティング」の役割も取り入れる。前半のゲーム終了時には、映像を見ながら振り返り、後半のゲームへの作戦を考えさせる。

「支える」の活動では、審判2名、得点2名、タイマー2名、ショットクロック2名の役割を設ける。それぞれが責任をもって仕事をするすることで、気持ちよく試合をすることができることに気付かせたい。

4 単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。(知識及び技能)
ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができるようにする。(技能)
- (2) 攻防等の自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦等についての話し合いに貢献しようとする事、互いに助け合い教え合おうとする事や、健康・安全を確保することができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

5 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①球技に用いられる技術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることを、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②試合を行う際、ゲームのルール、審判及び運営の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>①ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。</p> <p>②パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。</p> <p>③ゴール前の空いている場所をカバーすることができる。</p>	<p>①作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。</p> <p>②体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。</p>	<p>①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。</p> <p>③健康・安全を確保している。</p>

6 全体計画(12時間)(本時8/12)

時	学習活動	評価の観点				評価方法
		知	技	思	態	
1	<p>○学習のねらいや進め方について理解する。</p> <p>○スキルチェック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サークルドリブル(秒) ・ゴール下連続シュート(回) ・マシンガンパス(回) 				①	観察 学習カード
2	○スキルアップ練習					観察
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリブル、シュート、パス、リバウンド <p>○ディフェンス確認</p> <p>○オフェンス基本の動き</p>	①	①		②	
4	○ゲームⅠ(男女同チーム)					観察
5	<ul style="list-style-type: none"> ・試しのゲーム ・全チーム総当たり 		②	①		学習カード
6	○ゲーム進行の役割について確認する。	②				学習カード
7	○ゲームⅡ(男女同チーム)			②	②	観察
8	・自分の役割でゲームを楽しむ					学習カード
9	○ゲームⅢ(男女別チーム)					観察
10	・まとめのゲーム		③		③	学習カード
11						
12	<p>○スキルチェック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サークルドリブル(秒) ・ゴール下連続シュート(回) ・マシンガンパス(回) 	総括的な評価				学習カード

7 本時の学習(8/12)

(1) ねらい

- ・ 体力や技能の程度、性の違い等に配慮して、仲間と共に球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けることができるようにする。
- ・ 互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとすることができるようにする。

(2) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点 (◎研修主題に関わる指導ポイント、○指導、●評価)
(1) 集合・整列、健康観察、準備運動(10分) ①準備体操 ②準備運動 ③トレーニング ④動きづくり ⑤スキルアップトレーニング (2) 本時の学習課題の確認(1分)	○ 体調をチェックする。 ○ 楽しみながら取り組むことができるよう、積極的に声かけを行う。
自分の役割を理解して、ゲームを盛り上げるために貢献しよう	
(3) 自分の役割やチームの作戦Ⅰの確認(4分) 【する】 A 対 B 【みる】 C・D:スカウティング1名 ブースター(「支える」以外の役割の人) 【支える】 C・D:審判1名、得点1名、タイマー1名 ショットクロック1名、 ・ スカウティング係として、相手の弱点を探そう。 ・ ブースターだから、ディフェンス時、拍手でゲームを盛り上げよう。 ・ 攻撃を1人残して、4人で守るカウンター攻撃をしよう。 (4) ゲームⅠ(8分) ・それぞれの役割でゲームを盛り上げる。 (5) ゲームⅠの振り返り(5分) ・ ○○さんがフリーになるから、パスをして得点につなげよう。 ・ 守備をするとき、ボールばかりを見ているから、自分のマークする相手も気にしておこう。 ・ シュートの邪魔をする動きを、みんなでしよう。 (6) 作戦会議Ⅱ(4分) (7) ゲームⅡ(8分) 【する】 C 対 D 【みる】【支える】A・B (8) ゲームⅡの振り返り(5分) (9) 本時のまとめ(5分) ・ 初めて得点することができて嬉しかった。 ・ ○○さんに「ナイスプレー」と言われたので嬉しかった。 ・ ○○さんのアドバイスがとても分かりやすかった。	○ 生徒が自分の役割を確認したら、具体的にどのようなことをがんばるのかも確認させる。 ○ ゲームを盛り上げるためには、すべての役割のがんばりが必要であることを確認させる。 ○ 練習をしてもよいことを伝える。 ◎ 役割を理解し、ゲームを楽しんでいる場面や積極的なコミュニケーションの場面を探して、称賛し、振り返りの場面で、全体に広める。 ● 互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ● 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間と共に球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 【思考・判断・表現】

(3) 視点

- ・ 男女混合チームのゲームにおいて、コミュニケーションの場面を増やすために、ゴールマンの設置は有効であったか。
- ・ 体育の見方・考え方を働かせるための役割分担(する・みる・支える)は、男女共習でバスケットボールに親しむ有効な手立てであったか。